めじかじ通信

航海ー85

めじかじ市民記者ネットワーク

市民記者の目から見た「こもろ」を発信していくページです。ちょっとへんてこりんな名前「めじかじ」。意味は「め＝目」と「じ＝耳」を使って、発見への「かじ＝舵」をとろう。こうご期待！
またガッツのある取材記者を募集します。
▼問い合わせ先　企画課　情報戦略推進係

『小諸かるた』の絵札を手掛けた日本画家。作家活動での経験を学芸員として活かす

小諸高原美術館・白鳥映雪館学芸員　白鳥純司さん（33歳）

暖かな室内から出たくない！なんて日が多いこの時季、童心に返って〝かるた〟に興じるのはいかがだろう。小諸商工会議所創立100周年を記念して2014年に完成した『小諸かるた』は、小諸の歴史・自然・風土などを遊びながら学べるように作られた。48枚に及ぶ絵札を描き上げたのは、日本画家の白鳥純司さん。題材となる場所へ実際に足を運び、自分の目で確かめ、資料を集めた。読み句に合った、子どもでもわかりやすい構図を考え、1日1枚のペースで仕上げたという。昨年末には、かるたの読み句と絵を見開きで見やすくまとめた画集が完成。カードを束ねたような独特な装丁が面白い。ほぼ原寸大で絵が載っているので、カードではわからなかった緻密なタッチも確認できる。

白鳥さんは、幼い頃から絵を描くことが好きで、中学高校では美術班に所属。日本画の「清浄な表現」に惹かれ、藝大に進んでからは日本画を専攻した。卒業後から昨年秋までは東京で作家として活動。交通網や情報ネットワークが整っている現代、都会での制作にこだわらなくてもいいのではと感じていた折り、ちょうど募集があった学芸員の職に就くかたちで帰郷した。東京で過ごしてから改めて見る故郷の風景や空気の良さは却って新鮮だという。学芸員となった今も、もちろん制作は続けている。これまでは花鳥画や飼っていたハリネズミを描くことが多かったが、今後は人物画を描いていきたいというから、どんな作品になるか楽しみだ。

展示の企画から作品の保管、美術館の管理人的役割まで、学芸員の業務は幅広い。4月から高原美術館の学芸員は白鳥さん一人になってしまうので不安はあるというが、「この地域の作家さんと交流が持てるやりがいのある素晴らしい仕事です。魅力ある展示を企画して、地域の皆さんが地元の作家さんを知るお手伝いをしていきたいですね。作家活動で培った知識と経験を活かし、市民の皆さんに芸術文化に対する理解・知識・関心を高めていただけるよう頑張ります」と話してくれた。

『小諸かるた』と画集についての問い合わせは、小諸商工会議所（22-3355）まで。

（取材・文　村松　マヤ）

小諸高原美術館と併せ、白鳥映雪館も担当している白鳥さん。映雪さんとの関係を尋ねられることもあるのだとか。同郷で同じ名字、同じ日本画家である映雪さんの記念館に勤めているのも不思議な縁だ

『小諸かるた』のパッケージ（手前）と完成したばかりの画集（奥）

ゆらさんの四季の薬膳　大豆で厄除け？

2月3日の節分、2月初めの午の日に行われる初午――2月は大豆と縁の深い行事が続きます。節分には豆まきを、午の日には稲荷神社で、農耕を司る神様のお使いである狐に油揚げを供えます。豆まきは古代中国で邪気や疫病を払うために大晦日に行なわれていた行事が奈良時代に日本に伝わり、平安時代に定着したといわれています。

大豆はもともと東洋原産で、5千年前から栽培されていました。祭事に使われたということは、貴重かつ効能の高い食物だったのでしょう。最近は大豆に含まれるトリプシンインヒビターがインスリンを増加させ、有効成分のペプチドには血圧降下作用があることがわかってきました。

薬膳では大豆は消化器系の活動を穏やかにし、消化不良はもちろん便秘、疲労、更年期障害、美肌にも効果があるとされます。骨粗鬆症予防にもなります。まさに「福は内」「鬼は外」なのです。今年2月をぜひ大豆見直し元年に。

（国際中医薬膳師　小清水由良）